

革命と模倣、遺ること—— リノベーションと歴史の効用

Revolution and Imitation, Continue to Exist:
Renovation and Practical Uses of History

三井嶺 | Rei Mitsui

革命と模倣——歴史は革命と革新の積み重ねであり、創造を繰り返して進化してきた。

一方で、歴史は模倣に溢れている。「原本をあたれ」が合言葉の歴史研出身者としては、模倣はあまり響かない。

意匠設計者として設計に取り組むときの自分なりの作法を、覚え書きのように挙げてみることで、「歴史の効用」が見えてくるかもしれない。

遺す——革命的な唯一無二のオリジナルは一切の手を加えず遺すべきである。一方で、後続する模倣品は遺らなくてもやむを得ない。なお、革命はただちに模倣され定石となるため後者が大多数を占める。

見捨てる——古いものに対するセンチメンタルな感情はない。古くたって悪いものもある。価値のないものは見捨てるしかない。気が引けるならば、復元できるよう調査・記録しておけばよいだろう。

改変し蘇生する——かといって革命的なもの以外は全てスクラップしてしまえとはならない。

思想や造形に価値がなくても、パーツや材料レベルでは価値はある。由緒や痕跡を残したうえで、元の形に遠慮することなく改変すればよい。

また、思想に価値があっても質や形が良くない場合は、現代に蘇生して引き上げればよい。拙作「日本橋旧テラー堀屋」では、看板建築の典型的な仕上げの一つである洗い出し仕上げの土壁は改変した。当時の理想は西洋風のモダンな外観であり、思想を現代に引き継ぐならば、モルタルでフラットにして、真っ白とするのが正解だと考えた。洗い出しの土壁は、現代ではノスタルジックな古臭さが漂ってしまう。上辺の形のみを保存するばかりが解ではなく、思想こそが受け継ぐべき大切なものだと考えている。

新旧を混ぜる——リノベーションのセオリーともいえる「新旧の対比」とは逆、「オーセンティシティ」とも相反する判断といえる。オーセンティシティという大層な言葉を持ち出すほどに重要なものはそれほど多くないし、大抵の古いものはそのまま新しいものとの対比に耐えられるほど良くはない。古いものの良さを引き出すためには、新しいものと混ぜてしまってもよい。「日本橋旧テラー堀屋」において鉄を素地で用いたのは、古い柱の質感に寄り添う

ためである。新しいピカピカなものを対比させると、古い柱はただのボロに見えてしまうから。

遺るために——遺るためには構造と記号性(装飾)が重要だと歴史が教えてくれる。

構造については明快で、建物の骨である構造が壊れないくらい強靱で重厚か、再利用がしやすければいい。技術的に壊せないものはないが、解体するコストメリットがなければ遺る。

記号性=思想や文化に基づく装飾も遺るために重要だ。日本において木を一本遺すのは簡単で、ある日しめ縄を巻いておけばいい。人々が共有する思想(宗教や慣習)に基づく記号性をモノが帯びていると、簡単には壊されない。

「スポリア」の日論見——「日本橋旧テラー堀屋」の鉄の耐震補強フレームは、「スポリア」的な再利用を目論んで、接合部はボルトでシンプルに固定され、簡単に取り外せるようになっている。

歴史との戯れ——アールヌーヴォーを想わせる「日本橋旧テラー堀屋」の鉄物フレームは、もしかすると数百年後の歴史家を惑わせるかもしれない。鉄物部材だけが遺った暁に、どう年代が特定されるかが密かな楽しみであり、未来の歴史家との戯れを妄想している。

歴史の捏造(あるいはデジャブ)——東京・二子玉川の拙作「柳小路南角」は新築であるが、廃棄予定のレンガ、ハンチ梁、堤防築造以前を彷彿とさせる高基礎、貫のような木の仕口など、歴史を捏造するかのようなモチーフを多用している。デジャブを誘発し、あたかもリノベーションされたかのような感覚が生じるのではと試みた。実際、街に暴力的に新しいものが出現することを和らげ、初めから街に馴染むことに成功している。

イメージの源流を求めて——構造や記号性は遺るための小賢しい方策に過ぎない。一番有効なのは革命的であることだが、そう容易くはない。特に現代はピンタレストに代表されるようなイメージの参照や模倣に溢れている。模倣に惑わされず、長い歴史のなかの革命的な産物を何度も深く見て学び、小さくとも前進を積み重ね設計を続けていく。模倣を脱し次の革命につながることに賭けて。

三井嶺(みつゐ・れい)

三井嶺建築設計事務所主宰/1983年生まれ。東京大学卒業。同大学院(日本建築史、藤井恵介研究室)修了。修士(工学)。2008-2015年坂茂建築設計。作品に「日本橋旧テラー堀屋」「柳小路南角」ほか。U-35 2017最優秀賞、ウッドシティTOKYOモデル最優秀賞受賞ほか

